

令和2年度 全国学力調査の結果の公表について

平戸市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 教科に関する調査

- (1) 調査対象：小学校第6学年の児童（国語・算数）、及び中学校第3学年の生徒（国語・数学）
- (2) 出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とする。
- (3) 出題内容：以下の①と②を一体的に問う。
 - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
- (4) 出題形式：国語・算数・数学では、記述式の問題を一定割合で導入する。
英語では、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」に関する問題を出題する。記述式の問題を一定割合で導入する。「話すこと」は原則として口述式とする。

3 質問紙調査

- (1) 調査対象：小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒
- (2) 調査内容

児童・生徒に関する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査日

小学校：令和2年7月21日（火）

中学校：令和2年7月29日（水）、30日（木）のいずれか

5 平戸市の調査実施校・児童生徒数

小学校 15校：238人 中学校 9校：241人 計24校：479人

Ⅱ 平戸市の結果の概要

令和2年度 平均正答率の県との比較

校種	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
結果	+	+		

※結果「+」…平戸市の平均正答率が県の平均正答率以上のもの

<結果の総括>

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月に全国学力学習状況調査は実施されなかった。長崎県では、希望する学校のみ調査(小学校74%、中学校57%)を行い、提出されたデータ(小学校8,219名、中学校5,542名)の県平均が公表された。

小学校は国語、算数ともに県の平均を上回り、中学校において県の平均と同等の結果であった。また、中学校の数学を除いて、昨年度の平戸市の平均を大幅に上回っている。

領域別に見ると、小学校では、国語と算数の全ての領域において、中学校では、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」、数学は「図形」「関数」において県平均を上回っている。学力向上会議での協議、学力向上に向けた提言や学力向上プランを基に、授業改善に取り組んできた成果であると言える。

Ⅲ 平戸市の今後の取組

- 1 各学校の調査結果及び市全体の調査結果の分析による課題の把握
※全国学力学習状況調査、長崎県学力調査、平戸市学力調査
- 2 各学校で作成する『学力向上プラン』の内容の精査及び実践に対する指導助言
- 3 各種研修会（管理職研修会、教務主任研修会、研究主任研修会、初任者研修会等）における学力向上に関する指導助言
- 4 ICT機器を効果的に活用した授業改善のための研修会の実施
※大型デジタルテレビ、タブレットPC、実物投影機
デジタル教科書の活用等
- 5 平戸市学力向上会議の開催とそれを受けての各学校への指導